

第1回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成26年11月10日（月） 10:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員 上水流 久彦 委員 ・ 秋山 愿 委員 ・ 積山 豊通 委員
藤谷 善久 委員 ・ 片島 一平 委員 ・ 生熊 剛士 委員
石川 芳秀 委員 ・ 土井 幹雄 委員 ・ 山内 文雄 委員
藤元 恵里子 委員 ・ 小林 護 委員 ・ 岡崎 輝子 委員
早井 千波 委員 ・ 住田 鉄也 委員 ・ 清光 康子 委員
東 泰治 委員 ・ 堀江 勝 委員 ・ 明賀 誠 委員
吉川 由基子 委員 ・ 山岡 芳晴 委員 ・ 大坂 秋雄 委員
松長 百合子 委員 ・ 手島 亜希 委員 ・ 吉岡 史郎 委員
4. 欠席委員 毛利 昭生 委員
5. 出席職員 庄原市長 木山 耕三
企画課長 兼森 博夫
企画課企画調整係長 加藤 武徳
企画課企画調整係 本郷 明宏
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第1回 庄原市長期総合計画審議会次第

平成26年11月10日(月)10:00～
庄原市役所 本庁5階 第1委員会室

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 会長及び副会長の選出
5. 第2期庄原市長期総合計画について(諮問)
6. 会長挨拶
7. 第2期庄原市長期総合計画策定に関する基本的事項について(説明)
8. 議事
 - ・住民意向アンケート調査の実施について
9. その他(次回開催日ほか)
10. 閉会

会議経過

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

委嘱状は交付せず席上配布。各委員紹介。

(3) 市長挨拶

合併して10年を迎え、庄原市長期総合計画の対象期間も来年度を残すのみとなった。長期総合計画の策定以後、旧市町の歴史、個性を活かしながら「“げんき”と“やすらぎ”のさとやま文化都市」を実現するため、さまざまな施策事業に取り組み、旗印として掲げていた一体感の醸成、そして一体的な発展は着実に前進していると考えている。一方、全国的な課題でもある人口減少が加速するとともに、少子高齢化の進行、基幹産業の低迷等の課題は年々厳しさを増している。こうした中で、この度策定する長期総合計画は10年後の本市の将来像をしっかりと示し、実現していくための計画であり、まちづくりの最上位の計画となるものである。委員の皆様のご経験、知識を活かし、忌憚のないご意見・ご提案をいただきながら、新たな計画を策定し、庄原がいちばんと実感できるようなまちづくりに向け、お力添えをお願いしたい。

(4) 会長及び副会長の選出

事務局提案により、上水流 久彦 委員を会長に選出。

吉岡 史郎 委員を副会長に選出。

(5) 第2期庄原市長期総合計画の策定について（諮問）

木山市長から上水流会長に諮問書手交

(6) 会長挨拶

県立広島大学の地域連携センターで勤務しており、10年余り庄原市で仕事をさせてもらっている。地域の方々、企業の方々からよく相談を受けるが、人口が減っている、企業の元気がない、福祉の担い手がない等、いい町ではあるが解決しなければならない問題がある。

地方創生といわれる時代でもあり、しっかり実現していくことが出来る長期総合計画を委員の皆さんと作っていききたい。

(7) 第2期庄原市長期総合計画策定に関する基本的事項について
資料により事務局が説明

(8) 議事

・住民意向アンケート調査の実施について
資料により事務局が説明

委 員：一般市民と中高生のアンケートがあるが、大学生は対象にはしないのか。

事務局：18歳から29歳の中で庄原市に住民登録があれば大学生にも届く場合もあるが、住民登録されてない場合は難しい。大学生のみを対象としたアンケートは今回考えていない。

委 員：住民登録されているかどうかはわからないが、そうした若い人にもアンケートを行ってほしい。

会 長：同様の形で実施するかどうかは別にし、大学との協議において庄原市に対する意見や感想を聞く場を設け、審議の際にそれを資料として使用することも一つの手段として検討できる。審議会として異論がなければ、事務局に要望を出し検討してもらおう。

委 員：中高生アンケートの対象が600人とあり、学校へ依頼し実施するということが、対象者は全員かそれとも抽出しているのか。

事務局：高校2年生と中学2年生は生徒全員を対象とする。

委 員：専門部会の開催について、どのような切り口の専門部会なのか。メンバーは長期総合計画のメンバー以外に地域の審議会メンバーも加わるということか。詳細を説明してほしい。

事務局：専門部会は審議会メンバーで構成し、会長を除く24名をいくつかのグループに分け議論をいただく。資料で示した図に関しては、現計画の基本政策が5つの分野に別れているため専門部会を5つとしているが、人数が5人と少なくなるため、3分野程度に分け、7人から8人で集中的に意見を聞きたいと考えている。どのように分野を分け、また委員をどのように配属するかは、次回以降提案する。希望があれば希望を優先する。

会 長：進め方、アンケートの内容に追加や削除等はあるか。

委 員：アンケートの内容も分野別に問われている。今後、協議していく中で、行政の立場で分野ごとの成果と課題をアンケート結果と併せて考えれば、より課題や成果が明確になってくるのではないか。

事務局：第1期計画に掲げた目標、例えば人口目標は10年間で合併当初の4万3千人を維持するとあったが、結果としてはかなり下回っている。しかし、一方で成果もある。実績や成果、今後の課題をそれぞれ整理し示していきたい。大きな部分での課題もあれば、専門的な課題もあるため、それを明らかにしていきたい。

委 員：討議の柱を明確にしなければ、論議の視点がぼやけてくる。第1期計画における5つの分野の成果と課題が明確になると、論議がしやすくなる。見直すべきところは見直し、継続すべきところは継続すべきである。

会 長：基本的なデータを出すことで、問題も明確になると考えている。第2期計画がどのような形になるかまだわからないが、現在は数値目標が重要となっている。例えば、実際に人口が減少していく中で、実態に即し、人口規模を数値としてどのように捉えるかなどである。第2期計画を策定する前段として、第1期計画の成果を基本的なデータとして次回の会議で提示していただく。

委 員：地域審議会は26年度で廃止されるが、委員はそのままと説明があった。27年度以降、現在の委員の立場はどのようになるのか。

事務局：地域審議会は26年度末までと設置条例にも書いてあり、この12月議会で廃止条例の議案上程を予定している。長期総合計画審議会設置条例において、その構成員として地域審議会委員が書かれているが、変える必要があれば変え、地域審議会委員の期間がいつまでと整理すれば法的には問題ないように思う。

委 員：それぞれの地域代表といった名称であれば、以後も通用するのではないか。

会 長：施行規則第2条の(3)に各地区の地域審議会委員と記されており、地域審議会が廃止された場合はその委員はなくなる。よって、その部分の整合性は整理をお願いしたい。

事務局：規則改正を検討する。

委 員：長期総合計画は10年ごとに見直しをされるが、アンケートの年齢区分が20歳区分になっており、10歳区分にすれば、今後第3期計画を策定する場合において世代による意識変化が明確となるのではないかと。

会 長：今回のアンケートの形式については、作成側としての一定の考えがあると思うので、区分等に関して説明をお願いしたい。

事務局：即答は出来ないが、前回も10歳区分ではなかったように思う。この意見は理解でき、変更も可能である。

会 長：10年ごとに見直すのであれば、10歳区分にすると良いのではという意見が出たが、他の委員はどのように考えるか。

委 員：年齢構成が庄原市の場合は偏っている。60歳以上は半分程度いるのではないと思う。その辺りを考慮しなければいけないと思う。

会 長：資料の中では、年齢構成と比率をかけ高齢になるほど配る枚数は多くなるよう配分されており、ある程度実効的な割合のものが反映されている。さらに、中高生にアンケートを行う事により、次世代の庄原市を担う世代の意見を反映させていくこともできる。地域において多数の意見と次世代の意見を併せてここで審議し計画を立てていくと理解している。基本的にはこの考え方で良いと思う。

アンケートの全てを尊重するというわけではなく、ここで議論をしていく中で一つの土台となればと考えている。統計学的にある程度正しい形でアンケートを実施し、その上で委員の意見を聞き、さらに大学とも出来る限り協力し、現在の庄原市に対する思いや考えを加え、若い人の意見を吸収していき、アンバランスな部分を調整して行きたい。年齢に関しては、第3期、第4期と引き継がれていくなれば、10歳ごとに抽出したほうが経年変化が見やすい。20歳では幅があるように思うので、10歳刻みに改定してはどうか。

事務局：そのように改定する。

委員：審議会は公開か非公開か。

事務局：公開である。ホームページでは掲示していたが、マスコミ等個々の情報提供が遅れ申し訳なかった。市民も傍聴できる。

委員：第1期計画の検証は、どのような形で検証し、この審議会に情報提供するのか。基本構想には間に合わないのか。

事務局：各政策における数値やアンケート結果、満足度等を整理しお示しする。

委員：長期総合計画に目標数値があまり載っていない。人口においては4万3千人を目標としていたが現在3万8千人程度であり、差が出てきている。出生率においても年340人程度とあるが、現在は年約240人である。そこをしっかりと検証し、今後10年間に於いてどの程度を目指すのかが大きなテーマであると思う。抽象的な計画だと第1期計画との違いがなく、特に基本構想はそうなる可能性が高いのではないかと。審議会での議論の際にデータを示して検証することと、庄原市の厳しい現状と課題をバックデータである程度整理することにより、審議がよりスムーズに進み、地に足の着いた議論が出来るのではないかと。

事務局：行政職員として受け止めている課題があり、行政側の視点、立場で理解してもらえよう提示するが、不足部分については意見を出してもらい追加していく。

委員：計画には介護認定率が平成27年度は21%とあるが、現在既に25.7%とかなり増加し、財形推計値も書かれていない。来年度より交付税がカットされる状況で、財政推計も入れなければ議論するのは難しい。

会長：議論のための基本的なデータ、検証するためのデータの提示をお願いします。計画策定において、表に出す、出さないに関わらず、数値目標を議論していきたいと思う。

委員：庄原市に大学があるにもかかわらず、庄原市に住まないのは地域に魅力がなく、アルバイト先もないためであり、三次市等に住民票を置いている学生

が多くいると聞く。アンケートでそのあたりを詳しく聞き、計画の中に改善策を盛り込んでいくことが必要ではないか。庄原市に大学がある事はすばらしいことであり、若い人たちがこの地にとどまらないことにはいつまで経っても良くはならないと思う。

会 長：地域にもっと踏み出すよう促してもらえないと言われることも多く、我々もそのように思っている。どのような形であれ、庄原市に対する学生の思いを聞く場を設けたいと思っている。市からも学生の意見を聞く場を設けることが出来ないかと相談を受けている。アンケートがどの程度修正できるのかわからないが、アンケート内に大学に関しての項目を入れても良いのではないか。中高生に対しては、県立大学の認知度等を聞き、市民に対しては、大学の価値観や存在等を客観的に聞く事も必要だと思う。

委 員：市内において県立大学の重要性は高いと認識しているが、大半の高校生は市外に出て大学、専門学校、短大に行くのが実情であり、県立大学の学生は市外から多く来ていると聞く。庄原市を出た人は庄原市をどう思っているか、また他市へ出た子の親は帰ってくることを期待しているが、本人が庄原市へ戻り生計を立てるとしたらイメージは大きく異なっていると思う。市外へ進学した大学生等が一度出た上で庄原市をどのように見ているのか、このアンケートでは難しいと思うが、少しでもわかると計画に役立つのではないか。基本的に県立大学の学生に意見を聞く事は賛成である。

会 長：アンケートの内容、方法により、市外に出た人の意見を聞けないかという意見であるが、まず、大学に関する事項の追加については、大学と事務局側で協議をしたいと思う。市外に出た若い世代の意見を聞く良いアイデアはあるか。

事務局：今年度からUターンの取組として、「帰ろうやクラブ」をつくり、庄原市を出た者を会員とし、インターネットを通じ庄原市の情報や就職情報を送り、庄原市へ帰ってくる呼びかけをしている。現在の登録者は80人程度らしいが、それらに対し帰郷意識を確認することは可能であると思われる。

委 員：子供を対象にしたアンケートに、大学に関する事項を追加することはよいと思うが、長期総合計画を策定するためのアンケートであるという視点を忘れないよう注意しなくてはいけない。範囲を広げ過ぎず、焦点化したアンケートを作成する必要がある。

事務局：今回の長期総合計画は、特に人口減少が大きな課題であり、庄原市外へ出たお子さんの帰郷の意識、庄原市に帰郷するための条件等は非常に大きな問題であるため、可能な限り現在市外へ出ている方の意見も聞きたい。形式については、事務局に任せてほしい。帰ろうやクラブの意見も伺う。現在、市内を離れた高校生の意見を聞くことは、地域の方以外は把握が難しい。

会長：まとめると、アンケート形式については原案通りに進め、大学に関する事項の追加は調整する。県立大学生の意見収集については、別途市と相談し、市外へ出た方の意見は、帰ろうやクラブ等で収集する。市民の意見を知ることとは重要だが、一資料として考え進めていく。

委員：教育に対してなおざりになっているのではないか。10年先には高校が二つ程度になるのではと感じている。教育の質を高める項目を盛り込む必要がある。大学や沢山の高校がある市は他にない。基礎となる問題である。

会長：教育の充実は、今回のアンケートにも盛り込まれている。専門部会においても高校や大学に関する意見が出ると予測されるため、とりまとめを行い全体に反映していきたい。

委員：アンケート結果により基本構想を第2回審議会に出すのか。市民アンケートのみで基本構想ができるのか疑問である。審議会メンバーとして庄原市の課題や実態をしっかりと踏まえ、10年後にどのような町をつくるのか、現状をしっかりと踏まえた上で議論する必要があると思う。現行の基本構想は非常に抽象的であり、全地域のキャッチフレーズも覚えられない。

事務局：アンケートのみで作成するのではなく、あらゆる指標、成果や課題等をすべて取りまとめ、素案として事務局から提出し意見を伺う。

委員：基本構想の素案を審議するということか。

事務局：たたき台がなければ意見も出せない。

委員：事前に提示してもらえるのか。

事務局：提示する。

委員：スケジュールを見て、これで審議できるのか危惧している。ある程度具体性を持たせないと、現行計画では将来像が見えない。具体的な目標数値が少ない。

会長：第2期長期総合計画に対してそれぞれ思いがあると思う。次回その思いをぶつけていくことになるだろう。そのために必要なデータ、第1期の検証に関わる部分は、できる限り事務局側から提出してもらいたい。不足部分は会議中に要望してほしい。アンケートに関しては、市民の意見がある程度踏まえ計画を立てるため、参考資料の一つと考えている。アンケート結果は、ある程度予測されるかもしれないが、経年変化等においては貴重な資料となりうる。第1期のアンケート結果より、どのように市民意識が変化しているのかも勘案して、第2期の長期総合計画を考えていきたい。

(9) その他（次回開催日ほか）

事務局：次回は2月上旬を予定している。希望の曜日等があれば可能な限り調整する。

会長：必要な資料等があれば、個別に事務局へ伝えてほしい。

(10) 閉会